はじめに

誰もが明るくて暖かい春を待ち望むものでしょうが、白山の麓で雪深い冬を過ごしている私にとって、その気持ちは一段と強く、4月になっても解け切らぬ雪が、春の花への憧憬をより強く醸し出します。夏は澄んだ青空と輝く太陽、里ほど汚染されていない空気と清らかな水、濃い緑に囲まれ、夜の気温が下がることから、秋の訪れを里より少し早く感ずることができます。このように四季の変化がはっきりしている山里の花は、贔屓目かもしれませんが、色鮮やかで香り豊かな気がします。

花は植物にとって、次の世代を作り出す「しくみ」に過ぎません。しかし、多くの人はそれを見て美しいと感じます。特に季節の変化が豊かな日本の文化は、折々の花との関わりの中で、花を美しいこと、華やかなこと、麗しいことのシンボルとして見つめてきました。しかし、社会が工業化、商業化、情報化、国際化することによって、生活の利便性を追求した結果、環境汚染やストレスを産み出しました。私も仕事の関係でこれらの問題に直面します。そんなとき、園芸に携わる者の一人として、育てている花たちに「心和むとき」を数多くもらいました。そのことが忘れがたく、その折々に私の思いを添えて「花の心、人の心」として書き留めてきました。従って、この本は単に花の栽培方法だけを紹介したものではなく、植物の「生き様」を、ときには内側から、ときには外側から見て書いたつもりです。表現の拙さから、はたして「こころ」が通ずるかは案じられますが、どうか「花も実もある」ものを感じていただければ幸いです。

終わりに、この本を作るに当たり、花の写真を提供された崎川英彦さんをはじめ、多くの方々からご協力とご援助をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

2012年4月吉日

東　保之

新装版 北陸の花づくり 目次

はじめに……1

春・初夏の花

サクラ……桜……4
花木の植え付けの基本……7
デージー……雛菊……8
シャクナゲ……石楠花……10
フジ……藤……12
スミレ……菫……14
ボタン……牡丹……16
クロユリ……黒百合……19
スズラン……鈴蘭……20
サツキ……杜鵑花……22
シャクヤク……芍薬……26

夏の花

バラ……薔薇……28
アヤメ……菖蒲……32
インパチェンス……紅吊舟……34
ハナショウブ……花菖蒲……36
ササユリ……笹百合……38
カラー……海芋……40
アジサイ……紫陽花……42

野山に咲く花

ユリ……百合……46
クチナシ……梔子……49
ネムノキ……合歓木……51
ペチュニア……衛矛根朝顔……52
ヒマワリ……向日葵……54
サルスベリ……百日紅……56
アサガオ……朝顔……58
ムクゲ……木槿……60
サギソウ……鷺草……62
ハス……蓮……64
ホオズキ……鬼灯、酸漿……65
タマスダレ……玉簾……66

秋の花

ハギ……萩……68
シュウメイギク……秋明菊……70
コスモス……秋桜……71
サルビア……緋衣草……72
ヒガンバナ……曼珠沙華……74
ベゴニア……秋海棠……76
シュウカイドウ……秋海棠……78

四季の庭

リンドウ……竜胆……80
キンモクセイ……金木犀……82
ノギク……野菊……84
ホトトギス……杜鵑草……86
モミジ（カエデ）……紅葉（楓）……88
キク……菊……91
大菊3本仕立て（盆養）の作り方……93
ムラサキシキブ……紫式部……100

冬の花

サザンカ……山茶花……102
シクラメン…………104
ポインセチア……猩々木……106
カトレア…………108
ハボタン……葉牡丹……110
ワビスケ（早咲きツバキ）……侘助……112
フクジュソウ……福寿草……114
ロウバイ……臘梅……116

早春の花

スイセン……水仙……118
クリスマスローズ…………120
セツブンソウ……節分草……122
ウメ……梅……123
ボケ……木瓜……126
ユキワリソウ……雪割草……128
モモ……桃……130
シュンラン……春蘭……132
ジンチョウゲ……沈丁花……134
バンジー・ビオラ……三色菫……136
ツバキ……椿……138

月別の作業ごよみ

……141

よくある質問

……143

花の名前・50音順 索引

【ア行】
アサガオ……58
アジサイ……42
アヤメ……32
インパチェンス……34
ウメ……123

【カ行】
カトレア……108
カラー……40
キク……91
キンモクセイ……82
クチナシ……49
クリスマスローズ…120
クロユリ……19
コスモス……71

【サ行】
サギソウ……62
サクラ……4
ササユリ……38
サザンカ……102
サツキ……22
サルスベリ……56
サルビア……72
シクラメン……104
シャクナゲ……10
シャクヤク……26
シュウカイドウ……78
シュウメイギク……70
シュンラン……132
ジンチョウゲ……134
スイセン……118
スズラン……20
スミレ……14
セツブンソウ……122

【タ行】
タマスダレ……66
ツバキ……138
デージー……8

【ナ行】
ネムノキ……51
ノギク……84

【ハ行】
ハギ……68
ハス……64
ハナショウブ……36
ハボタン……110
バラ……28
バンジー・ビオラ…136
ヒガンバナ……74
ヒマワリ……54
フクジュソウ……114
フジ……12
ベゴニア……76
ペチュニア……52
ポインセチア……106
ホオズキ……65
ボケ……126
ボタン……16
ホトトギス……86

【マ行】
ムクゲ……60
ムラサキシキブ……100
モミジ（カエデ）……88
モモ……130

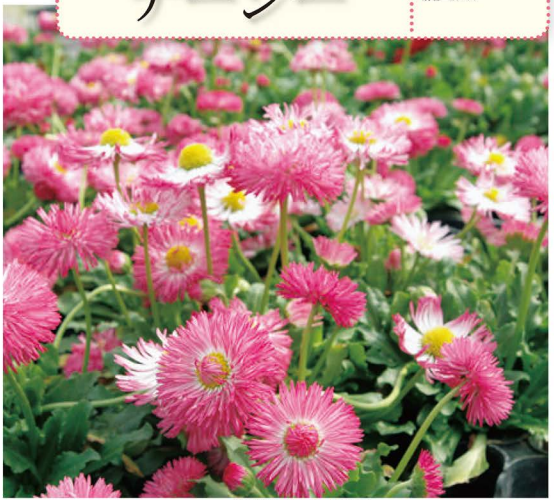
【ヤ行】
ユキワリソウ……128
ユリ……46

【ラ行】
リンドウ……80
ロウバイ……116

【ワ行】
ワビスケ（早咲きツバキ）…112

デージー

●花期／3～6月
【雛菊】キク科
別名＝ヒナギク



鮮やかな桃色のデージー（翠星高校）

栽培のポイント

枯葉が少ない苗を選ぶ

●種類　草丈は5～15センチ、色は主に赤、白、桃色があります。ヨーロッパ原産の花で本来は多年草ですが、高温に弱く、日本では夏越しが難しいので、秋まきの一年草として扱われます。

●性質　高温には弱いですが、日光を好む性質があるので、日当たりのよい場所に置きます。

●よい苗　ポットの苗を購入する際は、葉の緑色が濃く、枯葉が少ないものを選びます。成長した苗は根が固くなっているので、良くほぐしてから定植します。

●かん水　苗を定植した直後のかん水は、根や土、肥料をなじませる重要な役割があります。じょうろの口を下向きにして、プランターの底から水が抜けるくらいたくさん与えます。

●花がら摘み　黄色のめしべの集まりがくっきりと見え始めたら、花茎の根元からつみ取りましょう。

●容器栽培　排水をよくする軽石を底一面に敷き詰め、培養土を足します。デージーは粘土質の土を好むので、購入の際は園芸店に相談しましょう。また、プラスチック製の容器は蒸焼に比べて排水性が悪く、底石を多めに使います。肥料は1株あたり5、6粒施し、少し培養土を足して根が直接触れないようにします。

花期が長い愛らしい花

3月半ば、寒暖を繰り返しながら野山はにわかに春めいてきて、庭にはマンサク、ジンチョウゲ、野にはスミレ、タンポポ、ゲンゲなど多くの草花、花木が競って咲き始めます。この時期の花壇は、冬越しの葉ボタンと植え替えです。パンジー、ビオラに次いで多いのが、別名「ひなぎく」といわれ、古くから親しまれているデージーです。春から夏まで次々と咲き続ける愛らしい花で、花期が長いことから延命菊、長命菊ともいわれています。

清楚な白のデージー（翠星高校）

この花を見ると子供の時のことを懐かしく思い出します。春の暖かい日だまりの中で、野の花と遊んだ愛らしい姿が印象深く、その花びらを一枚ずつちぎって「愛している」「愛していない」の恋占いをしました。青いレモンの味を思い出します。

花言葉は「幸福・明朗・無邪気」です。

ヒマワリ

●花期／7～9月

【向日葵】キク科
別名＝日車（ひぐるま）、日輪草（にちりんそう）、天竺葵（てんじくあおい）、コモンサンフラワー

大輪の花を咲かせたヒマワリ（金沢市内の農園）

栽培のポイント

肥料は控えめに

●種類　草丈により高性種と矮性種、枝分かれの性質により分枝性種と無分枝性種があります。

高性種は草丈が高いもので、花壇や食用に利用されます。ロシア、サンリッチ・レモン、太陽などの種類があります。

矮性種は草丈が低いもので、花壇や鉢植えに利用されます。ビッグ・スマイルなどがあります。

●性質　日当たりの良い所を好み、比較的低温に耐えます。土質は肥沃な粘土質が適し、乾燥に耐えますが、水切れすると下葉が黄変します。

●種まきと植え付け　種まきの時期は4月下旬～5月上旬が適します。直播きして育てる場合は1カ所に3～4粒まき、順次間引きし、生育の良いものを1本に残していきます。育苗して育てる場合は3～4号のビニール鉢に種をまき苗に仕立て、5月下旬、本葉4枚のころに畑に植え付けます。

間隔は高性種で40センチ、矮性種で20センチほどです。

●施肥　吸肥力が強いので肥料は控えめにするか、無肥料にします。葉色が悪くなり、肥料切れと思われる場合は80倍ほどの液肥を与えます。

●栽培のコツ　草丈が高くても、茎が太く強いので支柱は必要ありません。分枝性種は花が咲き終わったら花がらを摘み取り、側枝の成長を促します。

●病害虫　比較的少ないですが、雨の後は病害虫が出やすいので、ベンレート剤などの殺菌剤を、高温乾燥期にはハダニが発生しやすいので、殺ダニ剤を散布します。

夏の太陽に似合う花

うだるような暑さとともに強い日差しで夏の訪れを告げるのが7月下旬です。

この時期の花では「ヒマワリ」がよいと思います。

別名は「日車」「日輪草」、英名のサンフラワーは「太陽の花」の意味で、夏の太陽の光に最も似合う花と断言してよいでしょう。

この花では二つの思い出があります。一つは映画「ひまわり」で見たスクリーンいっぱいのこの花で、以来この花を見ると、この映画の主人公を演じた女優ソフィア・ローレンとイメージが重なるようになっています。

もう一つは、海外研修の時に見た、ハンガリーの農場でのヒマワリの収穫風景です。巨大なコンバインで刈り取られるさまは、私が持っていた「花」というイメージを一変させるに十分ぎるほど強烈なものでありました。帰国後、その用途を調べてみると、種子は食用、飼料のほか、さまざまに利用されており、自分の知識の乏しさを再認識させられました。

夏の盛り、茎の頂きに太陽を思わせる大きな花が咲き、いかにもたくましいと思います。

花言葉は「光輝」です。

ヒマワリはいつも太陽に向く?

ヒマワリは必ず太陽のほうを向くといわれ、広く信じられていますが、本当でしょうか。

結論から言うと、若いうちは柔らかい茎の先端はつぼみごと太陽の動きにしたがって回りますが、開花すると花首は硬くなり、南向きのままほとんど動かなくなってしまいます。

多くの植物には「向日性」という性質があります。これは正の屈光性反応（光の方に向くこと）を示す茎の生長をいい、ほとんどの植物の茎は太陽に向かって生育します。

これはヒマワリに限ったことではありません。その原理を言いますと、茎の先端にはオーキシンという生長ホルモンがあり、オーキシンは太陽光によって分解されてしまうので、太陽に当たる側は生長が滞り、太陽に当たらない側がより生長し、結果として茎花は太陽の方に向くのです。

ヒマワリはつぼみの頃まで茎の先が柔らかいので、太陽に向く運動（転頭運動）が目につくのです。

北陸での栽培ごよみ

	5 上	5 中	5 下	6 上	6 中	6 下	7 上	7 中	7 下	8 上	8 中	8 下	9 上	9 中	9 下	10 上	10 中	10 下	11 上	11 下
庭植え				播種			植付			花										

ヒガンバナ

●花期／9月

【曼珠沙華】ヒガンバナ科
別名＝彼岸花、葉みず花みず、死人花（しびとばな）、幽霊草、三昧草（さんまいそう）、捨子花、舌曲がり

鮮やかな赤のヒガンバナ（白山市、著者栽培）

栽培のポイント

夏の酉日を嫌う

●**種類**　秋の彼岸に咲く朱赤色のマンジュシャゲには、いくつかの仲間があります。最も早く7月に咲くのは樺色のキツネノカミソリ、8月に咲く桃色のナツズイセン、10月に咲く黄色のショウキランのほか、リコリスと称して桃色、ピンク色の花などがあります。

●**性質**　排水が良好で、乾燥しない土壌でよく育ちます。また日当たりは好みますが、夏の西日を嫌う耐寒性の球根草花です（ただしショウキランは寒さに弱い）。特徴として花時は葉がありませんが、花後は葉を茂らせ、夏に休眠します。

●**植え付け、植え替え**　葉が黄変する7月に掘り上げ、直ちに植えます（ただ、ナツズイセンはこれより早い6月がよい）。

植え付け予定地に1平方メートル当たり堆肥か腐葉土を2キロ、化成肥料を一握りほど与え、土とよく混ぜておきます。そこに、20センチほどの間隔で、球根の高さの倍（約15センチ）以上の深さに植え付けます。なお植え替えは5～6年に一度行います。

●**施肥**　花後に化成肥料を少し与えます。

●**病害虫**　ほとんどありません。

●**栽培のポイント**　浅植えは花が咲きにくいです。鉢植えはあまり花が付きません。ショウキランは室内で越冬させます。

葉が出る前に鮮烈な花

秋の長雨で火照った大地が癒され、ようやく暑さを感じなくなった頃が秋彼岸です。

このころ堤防や土手、田圃の畦や墓地などに、地上に葉がないのに目立った朱赤色のシベを長く出した特徴ある花を、いかにも唐突に群生して咲かせるのがマンジュシャゲです。

名の由来は法華経に出てくる梵語の「赤い花」からです。また秋の彼岸に咲くことから「彼岸花」、花が咲くときに葉がないことから「葉みず花みず」、墓地や土手に咲くからか「死人花」「幽霊草」「三昧草」「捨子花」、有毒であることからか「舌曲がり」など別名、異名が非常に多いです。それゆえに日本人との関わりの深さが感じられます。

墓地近くに咲き、有毒であるなど、嫌われるイメージが強いため、あまり庭植えで楽しまれる花ではありません。

しかし私はこの花が好きで、かなり前、道路沿いの田圃の土手と我家の墓地に植え付けました。

以来、まだ緑濃い野原に鮮烈な赤い花が群がって咲くのを見て、すすみゆく秋を楽しみながら、日本を代表する秋の花を実感しています。それは、近年ではめったにお目にかかることのない田舎娘の純朴な風情を、その花の姿に見ることができるからです。

花言葉は「悲しい思い出・思うのはあなた一人」です。

リコリスのなかま

ヒガンバナはリコリスの仲間に属します。英語でラディアクといい、日本から球根が輸出され、アメリカの住宅の広い庭で、緑の芝生に真赤な花が集団で咲いている姿は美しいと聞きます。また昔から、この球根に含まれているアルカロイドを野ネズミが忌避することから、畦畔に植え付けるための注文が多いと、私の付き合っている園芸商が話してくれました。

北陸での栽培ごよみ

	5 上	5 中	5 下	6 上	6 中	6 下	7 上	7 中	7 下	8 上	8 中	8 下	9 上	9 中	9 下	10 上	10 中	10 下	11 上	11 中	11 下
地植え								植付						花		施肥					

施肥＝IB 化成など

パンジー・ビオラ

●花期／4～6月

【三色菫】スミレ科
別名＝サンシキスミレ、遊蝶草（ゆうちょうか）

出荷前のパンジー苗（翠星高校）

栽培のポイント

しぼみ始めたら摘み取り

●種類　花の直径が10センチ程度の品種をパンジー、5センチ程度の品種をビオラと呼びます。大きさによって大輪、中輪、小輪種に分けられています。色は黄、赤、青のほか、ピンク、白、紫、オレンジなどがあります。

●性質　寒さに強く、日光を好みます。日当たりのよい場所に置きましょう。

●よい苗　葉の緑色が濃くシャキッとしていて、ポットの裏側を見て、白っぽい根が数本出ている苗を選びます。老化した苗は根が成長し過ぎており、プランター1の土に活着しにくく、管理が難しくなります。

●移植と定植　種まき後、20～25日たつと本葉が2、3枚になるので、移植します。田土3、ピートモス3、パーライト2、腐葉土2の割合の土を用意しておきます。

定植は、11月頃から遅くても12月上旬までに終えます。遅く植えると根が活着しないうちに寒くなり、霜や雪などの被害を受けるので注意します。

●花がら摘み　花茎の下部から摘み取ります。花がしぼみ始めたら摘み取りの合図で、冬は15日ほど、春は5日ほどに1回程度の花がら摘みが目安になります。摘み取りのたびに、8000倍から1000倍に薄めた花用液肥を適量与えると長く花を楽しめます。

春の花壇苗の主役

2月半ばは大変寒いですが、伸びてくる日脚が春の訪れを告げ、里ではウメがほころび始めます。この頃、園芸店では春の花壇苗の主役パンジーが目立ちます。この花は、知らない人がいないほど多くの人に愛されている花で、下向きのつぼみの姿が頭を垂れ物思う姿に似ていることからフランス語のパンセ（考える）が由来と言われています。

寒さには強く、秋のうちに十分根を張らせておけば、雪の下でも越冬でき、4月初めからピロードのような艶のある大きな花を、花柄から横向きに付け、その姿は別名「遊蝶草」と言われるように蝶が羽根を広げたように美しいのです。

2012年3月、母校の中学校の卒業式に参列し、若々しい後輩達が学舎を巣立つ姿を微笑ましく見送り、校舎を退出する際、玄関でこの花のプランター花壇が目にとまりました。この冬の大雪でまわりはまだ白銀の世界、雪と寒さに耐えた葉は紫色に近いけれど、小さなつぼみをつけ、たくましく春の日射しを浴びていました。今日、学舎を巣立ちそれぞれの道を目指す卒業生達と重なり、しばらくのあいだ見入りました。

紫のビオラ（熊美市内の園芸店）

「三色菫（さんしきすみれ）　勤勉をただ　誇りとし」

藤田湘子

花言葉は「物思い・思慮深い」で小型のビオラは「誠実な愛・信頼」です。

●著者プロフィル

東　保之（ひがし・やすゆき）

白山市在住。
昭和18年５月30日、石川県白山市（旧鳥越村）生まれ。
金沢大学教育学部卒。
昭和41年から内尾中(旧河内村)、43年から松任農業高校(現翠星高校)に勤める。
担当科目は野菜（草花、栽培環境、生活園芸等)。
松任農業高校での所属学科は農業科15年、園芸科10年、園芸科学科７年。
翠星高校では総合グリーン科学科。
自宅においても花の栽培約150種類、野菜の栽培約40種類を手がけている。
現在、加賀野菜保存懇話会会員、鳥越菊作りの会会長、石川県菊花協会理事

【園芸教室等の講師歴】

金沢市田上農協、金沢市中央農協、金沢市ことぶき大学、辰口西部公民館、辰口南部公民館、辰口東部公民館、山中町栢野地区、小松市農政課、サンライフ松任、松任市花と緑のフェスティバル、県種苗協会、食とみどり、水を守る全国集会パネラー、鶴来町白寿会、味噌蔵町公民館、美川町公民館、NHK 金沢放送局「600園芸塾」、津幡町農産課、石川県菊花協会、金沢市中央公民館、河内村商工会等

著　作／「北陸の野菜づくり」北國新聞社、科目「生物活用」農文協（共同著作）
執　筆／「うずもれつつある野菜に光を」富民協会、「花のこころ、人の心」北國新聞松任支局タウン紙、「石川線を旅する」「野菜の達人」「花のある暮らし」月刊北國アクタス

協　力／櫻井真希子、菅野武、川崎一恵
撮　影／崎川英彦、櫻井真希子、荒屋義武

北陸の花づくり

2002(平成14)年４月１日　第１版第１刷
2012(平成24)年４月30日　新装版第１刷

著　者　東　保之

発　行　北國新聞社

〒920-8588　石川県金沢市南町２番１号
TEL：076-260-3587　FAX：076-260-3423(出版局直通)
E-mail　syuppan@hokkoku.co.jp

ISBN 978-4-8330-1867-8
© Yasuyuki Higashi 2012, Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。
●本書の記事、写真の無断転載・複製などは固くお断りいたします。
●乱丁・落丁本がございましたら、小社出版局宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。